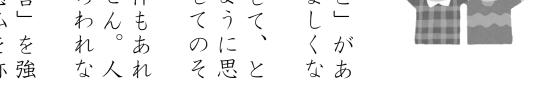
宝林宝樹 (13)ひとくち法話

これすなはち権化の仁浄業機彰れて、釈迦、 浄邦縁熟して、 調達、 闍 韋提をして安養を選ばしめたまへり 世をして逆害を興ぜ しむ

るたびに思い返す金言となっています。 事態のことです。 教行信証』にあるこの御文は、常に私のこころのどこかにあって「こと」があ 「こと」というのは、 あまり好ましくな

れは、はたしてどうなのかと、私は考えるのです。 てもやさしく、ありがたいものであるという側面を強調することが多いように思 います。それについて異論はありませんが「逆害」という苦 私もそうですが、普通、仏教につい て語るとき、それ を心 地 の話を抜 ょ () ものとして、 かしてのそ

ば、不快で迷惑、しかし切ることができないという関係も少なくあ 調するのをためらう気もありますけれど、 間関係の良し悪しは、 い関係を築く能力を、私は今のところ持ち合わせていないようです。 そんな私 が自分の生活に目を向け、 が「こと」あるごとにこの御文を思い返して感じ入るのは「逆害」を 自分の利害を基準に決めているようで、 周りの人たちを見てみると、気心の 救いを求める悪人「韋提」が念仏を称い思い返して感じ入るのは「逆害」を強 利害にとら 知れ りませ た 仲 6 ŧ あ



えるようになった縁が「調達」や「闍世」の悪行にあったということです。